

1 「買い物難民対策」移動スーパーの運行開始に伴う現状と課題

■実施報告と現状（令和8年6月24日運行開始）

- ・好調なスタート：初日に40人以上が集まる場所もあり、全体的に盛況な滑り出し。
- ・交流・安否確認の場：待ち時間が「ご近所同士の立ち話」や「お互いの安否確認」の機会となり、コミュニティ活性化に寄与。
- ・選ぶ楽しさの提供：配達とは異なり、品物を自分の目で見て選べる買い物の醍醐味を住民に提供。

■現場で見えてきた課題と対策・要望

- ・利用対象者の誤解：「高齢者専用」という思い込みから、若い世代や50代前後の方が遠慮してしまったケースが発生。誰でも利用可能である旨の再周知を実施する。
- ・到着の遅れと品切れ：前半ルートの混雑により、後半ルートへの到着が20分以上遅れる事例が発生。また、遅い時間帯の場所で品切れが発生。
- ・対策：売れ筋商品の途中補充など、現場に合わせた柔軟な改善を企業側が実施。
- ・坂道による持ち帰りの負担：販売場所まで来られても、「買った重い荷物を持って坂を上るのが辛い」という声。
- ・利用者が少ない地域での維持（山西など）：住宅が点在するエリアでは利用者が少ない。
- ・対策：企業の採算と地域福祉を両立するため、より人が集まりやすい場所や告知方法を検討。
- ・販売場所の要望（下町地区）：現在の下町会館は、下浜地区の住民にとって坂の往復が大きな負担となっている。
- ・対策：地域の方の紹介により、「二宮中学校目の前の駐車場」の持ち主と場所の追加に向けて交渉中。

2 「住民のための支援」買い物以外の困りごとに関する情報提供

■有料生活支援サービスの概要（株式会社グリーングローブ様）

- ・サービス内容：病院や目の不自由な方の散歩への付き添い、重い家電の買い物代行、電気代等の支払い手続き代行、電球交換、庭木の相談など、日常の細かな困りごとへの対応。
- ・実績：大磯町での実績が多く、二宮町内での事例はまだ少ない状況。

■会議における主な検討・確認事項

- ・社協としての基本姿勢：特定の民間企業の推奨ではなく、住民が住み慣れた地域で暮らし続けるための選択肢を一つ増やすという位置づけで情報提供を行う。
- ・既存サービス（シルバー人材センター等）との棲み分け：既存のサービスとの「競合」を心配する声。
- ・整理：競合ではなく選択肢を増やすことが目的。既存制度では対応しきれない「今すぐ

来てほしい」「きめ細かい付き添い」といったニーズをカバーする。

③ 今後の展望と公平性

- ・住民の安心のため、民間も含めた有償・無償の多様なサービスを地域へ広めていく。
- ・今後、他社が同様のサービスで参入した際にも、公平に情報提供を行える仕組みを整えていく。